ようこそ
生活科学部へ

生活科学部長
杉田孝夫

生活を科学
しませんか

生活科学部のルーツ

明治8年（1875年）　　明治41年(1908年）

東京女子師範学校→東京女子高等師範学校

技芸科→家事科→家政科

昭和24年（1949年）

お茶の水女子大学　理家政学部

昭和25年(1950年）　家政学部

児童学科 被服学科 食物学科

昭和43年（1968年）　家庭経営学科

生活科学部へ

平成4（1992）年　生活科学部

生活環境学科

生活工学講座

食物科学講座

人間科学講座 →人類科学講座（平成13）

人間生活学科

発達臨床学講座　→発達臨床心理学講座（平成14）

生活社会科学講座

生活文化学講座

生活科学部の現在

平成16年（2004年）生活科学部再編

食物栄養学科（管理栄養士養成課程）

食と健康

人間・環境科学科

安全で持続可能な環境　人間と環境の相互作用

人間生活学科

発達臨床心理学講座	心の発達と健康
生活社会科学講座	公平で公正な社会
生活文化学講座	豊かな生活文化

「生活科学」

人間の生活と環境の持続可能性を追求

生活の質と生活の作法の再検討

現代にふさわしい価値と規準の創出

専門分化した学知の創造的総合

生活科学部の特徴

- 生活を科学する実践知の探求

  問題発見能力・考察力・表現力・対話能力の鍛錬

- 基礎教育と専門教育の有機的統合

  高密度の講義

  少人数の実験・実習・演習

  個別指導による卒業論文

- 文理融合の専門教養　学部共通科目

- 特色ある資格取得サポート→キャリア教育

  管理栄養士・建築士・幼小教員・中高家庭科教員・

  消費生活アドバイザー・社会調査士・学芸員

生活科学のフロンティア

時代の要請に応じた生活科学のフロンティアをきり拓く　生活科学部のスタッフ

連携システム

生活環境教育研究センター

ジェンダー研究センター

人間発達教育研究センター

グローバルCOEプログラム(格差センシティブな人間発達科学の創成)

活躍する卒業生

生活についての深い洞察力

生活者･消費者の視点

↓

学界･教育界･公務員

産業界(食品･服飾･住宅･家電･金融）

マスコミ･情報関連

生活科学部提供プログラム

プログラム提供学科	主プログラム (基幹)	強化プログラム (応用深化)	副プログラム (知見の拡張)	学際プログラム (専門横断的主題)
人間・環境科学科	人間・環境科学	人間・環境科学	人間・環境科学	
人間生活学科				
発達臨床心理学講座	発達臨床心理学	発達臨床心理学	発達臨床心理学	
生活社会科学講座	生活社会科学	生活社会科学	公共政策論 ジェンダー論	消費者学
生活文化学講座	生活文化学	生活文化学	生活文化学	

食物栄養学科

独自の専門教育カリキュラムに従って学修する
ニーズに応じて「副プログラム」「学際プログラム」を学ぶことができる

学際プログラム「消費者学」

生活科学部の学部共通科目を基に編成した学際的文理融合プログラム
消費者科学入門・食物学概論・環境衛生学・医療と健康・住居学概論・消費者経済学など

学科・講座の専門的個性がよく表れている多彩なプログラムが用意されています。
詳細は、この後の「学科・講座説明会」で。

複数プログラム選択履修制度導入に伴う入試出願方式の変更点

- 人間生活学科

出願に際して、願書・受験票・写真票に、

従来、三講座(発達臨床心理学・生活社会科学・生活文化学)いずれかの志望講座名を第一志望・第二志望まで記入する方式をとっていたが、

2011年度入試からは、

学部学科名(生活科学部人間生活学科)だけを記入する方式に変わる。

入学後のプログラム選択の時期

- 人間・環境科学科は

  入学時に人間・環境科学科が提供する主プログラム（必修）の申請をし、主プログラム以外のプログラムの選択は2年時終了時（以降）におこなう

- 食物栄養学科は、

  管理栄養士受験資格取得プログラム

  学科独自のカリキュラムに従って学修する

入学後のプログラム選択の時期

- 人間生活学科では

  発達臨床心理学講座・生活社会科学講座・生活文化学講座の三講座が提供する三つの「主プログラム」(必修)のいずれかを一年次終了時に選択する

→人間生活学科入学

→(一年次終了時)主プログラム選択

→(二年次終了時以降)その他のプログラム選択

→人間生活学科卒業

生活科学部の目ざす価値

Small is beautiful

Small is creative

また

このキャンパスで

会いましょう